

NO La VENIDERA

ラ・ベニデラ来日公演

スペイン国立バレエ団を退団後、初となる作品『NO』でその存在を決定づけたラ・ベニデラ
今、ヨーロッパ各地で大きな注目を集めている二人、待望の来日公演

[振付・演出・出演]

イレネ・テナ

アルベルツ・エルナンデス

[サウンドデザイン・出演]

デレク・バン・デン・ブルケ

[芸術監修]

マルコス・モラウ

2026年

9/18 fri. 19:30

9/19 sat. 17:00

セッション杉並ホール

丸ノ内線「東高円寺駅」徒歩5分、「新高円寺駅」徒歩7分

[主催・制作] DESEADO | <https://deseado.tokyo> [お問合せ] e-mail: info@deseado.tokyo Tel: 070-9043-7921

[後援] 駐日スペイン大使館 | インスティトゥト・セルバンテス東京 | 一般社団法人日本フラメンコ協会 | 公益財団法人スペイン舞踊振興MARUWA財団



公益財団法人スペイン舞踊振興MARUWA財団

Photo ©Alba Muriel

[主催・制作]
DESEADO
Producción de arte Flamenco

公式サイト





Photo©Maria Alperi

ラ・ベニデラ / La VENIDERA

アルベルツ・エルナンデス / Albert Hernández
イレネ・テナ / Irene Tena

La VENIDERA (ラ・ベニデラ) —— “来たるもの”

その名のおおりに、スペイン舞踊とフラメンコの新たな地平を切り拓く二人。現在、スペインのダンス界で最も将来を囑望される振付家・ダンサーユニットのひとつ。

バルセロナ出身のイレネ・テナとアルベルツ・エルナンデスは、伝統と現代性のあいだの“摩擦点”を探りながら、90年代後半生まれならではの現代的な視点を作品へと取り入れている。彼らの作品には、細部へのこだわりや職人的感覚、手仕事への愛着が感じられ、テクノロジー全盛の目まぐるしい時代の中であって、「間」の価値を大切にしている。

作品における“動き”は、あるコンセプト、あるアイデア、ある現代の物語に呼応して生まれてくるものである。しかし、それは言葉を通じてではなく、彼らを取り巻く社会的・芸術的文脈からエッセンスを吸収するようにして形作られていく。

2人は2016年に、アントニオ・ナハロ監督時代のスペイン国立バレエ団に入団。後に、ルベン・オルモ監督のもとでアルベルツは第一舞踊手（プリンシパル相当）、イレネはソリスタとして活躍した。マルコス・モラウ振付・演出によるスペイン国立バレエ団の話題作『Afanador (アフアナドール)』では共にメインキャストをつとめ鮮烈な印象を残す。2024年に退団した後は、La VENIDERAとして独自の活動を展開する一方、スペイン国立バレエ団の『Afanador』にゲストダンサーとして出演を続けている。

◆ 主な活動・受賞歴

- ・初作品『Loca』により、アルベルツ・エルナンデスがマドリッド振付コンクール最優秀振付賞受賞 (2019)
- ・イレネ・テナがAISGE財団優秀舞踊家賞を受賞 (2019)
- ・振付家としてスペイン国立バレエ団の『Sevilla』を創作 (2020)
- ・『Loca』と『Paseantes』がRed Acioabierto (スペイン各地の屋外ダンスフェスティバルネットワークの選抜作品) に選出され、Mas Danza等、各地のフェスティバルに参加 (2023)
- ・『Loca』がRotterdam International Duet Choreography Competition (RIDCC) で観客賞受賞 (2023)
- ・Fundación Juan March制作、ラ・アルヘンティエーナのドキュメンタリー映像作品に振付・主演 (2024)
- ・パトリシア・ゲレロ率いるアンダルシア舞踊団作品『Pineda』にゲスト振付家として参加 (2024)
- ・Hermès (エルメス) のプロジェクト Une nuit d'été に振付・出演 (2025)
- ・『NO』をマドリッドのCentro Danza Mataderoにて初演 (2025)
- ・『NO』により、スペイン国営放送のEl Ojo Crítico賞 (“批評家の目”賞) を受賞 (2025)
- ・アンダルシア舞踊団作品『Pineda』により、Talia賞・最優秀振付賞にノミネート (2025)
- ・スペイン国立バレエ団『Afanador』(振付・演出 マルコス・モラウ)によりアルベルツ・エルナンデスがMAX賞最優秀男性ダンサー賞にノミネート (2025)

デレク・バン・デン・ブルケ / Derek Van Den Bulcke



Photo©Jose Flores

フラメンコ文化と現代アートを結ぶ音楽プロデューサー兼、映像アーティスト。DJ、ノイズ、サウンドデザインなど活動は多岐にわたり、ロシオ・モリーナらとも共演している。音楽、映像、ダンスを横断しながら、純粋なフラメンコを現代的な感覚と融合。感情やリズムを再構築することで、観客を没入型の体験へと導く。その多文化的かつ実験的なアプローチは、フォルクローレを芸術や文化の領域を超えた「対話のためのプラットフォーム」として再定義する試みである。テクノロジーと革新的な手法を用いながらも、伝統の本質を失うことなく未来へとつなぐアーティストとして、大きな注目を集めている。

■ 作品紹介: 『NO』 La VENIDERA

“なぜなら芸術は、
現実世界を否定することで
存在しうる場所なのだから”

— Mark Manson

スペイン国立バレエ団を離れて初めての作品に、二人はNOというタイトルを選んだ。作品概要にはマーク・マンソンの詩が添えられている。“NO”ということばには、否定や拒絶だけではなく「空っぽにする」「無になる」という意図が込められているようだ。

本作は、マルコス・モラウが参加していることでも注目を集めた。しかし、モラウに全てを委ねるのではなく「芸術監修」にとどめたところに、La VENIDERAの二人の強い意志が感じられる。

『NO』は2025年の初演以来、スペイン国内をはじめヨーロッパ各地の劇場で上演が続く。美術館や屋外スペース等で行われる短縮版も好評で、スペイン舞踊・フラメンコという枠を超えたアート作品として、高く評価されている。

[振付・演出・出演]

イレネ・テナ、アルベルツ・エルナンデス

[サウンドデザイン・出演]

デレク・バン・デン・ブルケ

[芸術監修]

マルコス・モラウ

■ 開催日時

9月18日 (金) 19:30 開演

9月19日 (土) 17:00 開演

※上演時間 約60分

※開場は30分前

■ 会場: センオン杉並ホール

東京メトロ丸の内線「東高円寺駅」徒歩5分

「新高円寺駅」徒歩7分

■ チケット

▷ カンフェティ (GETTIIIS) ▷ イープラス

▷ Peatix ▷ フォーム ▷ メール ▷ 電話

[前売り] (税込み)

S席 12,500円、A席 9,800円、B席 7,000円

車いす席・配慮席、親子席 4,000円

[当日券] (税込み)

S席 13,000円、A席 10,000円、B席 7,500円

※車いす席・配慮席、親子席はお問合せください

※S席は7列目以降になります

※前方席 (A席・B席) は、舞台装置の関係で一部の演出が見えにくい場合があります

※B席は見切れ席を含みます

※5列目までは段差がありません

※親子席 (防音ブース) のみ未就学児可。

カンフェティの託児サービスについてはカンフェティにお問合せください。

※親子席、車いす席・配慮席 (障がいのある方) は個別に対応させていただきますので、事務局にお問い合わせください。

■ スタッフ

舞台監督 / やまだてるお (モモプランニング)

照明 / 森下泰

Light Ship

音響 / 伊藤秀輝 (共立)

リギング・舞台装置 / Kevin Yobánolo

音響・照明・映像 / Eugeni Alseda

主催・制作 / DESEADO (デセアード)

制作協力 / 中西ゆかり、Rafael Heredia

コーディネーター / Lola Ortiz、佐渡靖子

■ お問合せ DESEADO・公演事務局

メール: info@deseado.tokyo

電話: 070-9043-7921

[後援] 駐日スペイン大使館 | インститウト・セルバンテス東京 | 一般社団法人 日本フラメンコ協会 | 公益財団法人 スペイン舞踊振興MARUWA財団



公益財団法人 スペイン舞踊振興MARUWA財団

